

### お知らせ

11月10日(土)修行を予定しておりました「本願寺専如門主法統継承と西林寺客殿改修落成の記念法要」は、この度の豪雨災害の被害状況を鑑みて、次年度に延期することになりました。

掃敬式の受式や稚児出仕をご予定の皆さまには、大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご了承いただきたく存じます。

また行事日程が決まり次第、お知らせいたします。

西林寺門徒総代会

### 西林寺記念事業進捗状況

#### 客殿改修工事

豪雨災害の影響で工期が2カ月近く遅れましたが、屋根の葺き替え工事も完了し足場が取れ、美しくなった客殿の外観が姿をあらわしました。お寺に参拝して、ご覧いただきたいと思えます。



### 法座案内

#### 秋季永代経法座

十月十五日(月)昼席より  
十七日(水)朝席まで  
講師 福山市御幸町  
光圓寺 平山 智正 師

#### 仏教婦人会報恩講法座

十一月二十一日(水)昼席より  
二十三日(金)朝席まで  
講師 西林寺住職  
お斎 二十一日(水)十一時より  
(申し込みは 十一月十日(土)まで)

#### 報恩講法座

十二月十一日(火)昼席より  
十二日(水)昼席まで  
講師 佐伯区湯来町  
最廣寺 中村 英龍 師

朝席7:00～・昼席13:15～・夜席19:30～

### 編集後記

豪雨災害から3カ月が過ぎようとしています。多くの皆さまの献身的かつ継続的な支援に感謝しながらも、思うように進まない復旧の道程に、新たな焦燥感と喪失感を覚える日々です。皆さまのご疲労は如何ばかりかと心からお見舞い申し上げます。



# 西林寺だより

発行元  
西林寺門徒総代会  
広島県安芸郡坂町  
坂東3-14-17  
(082)885-0018  
iタウンページ  
西林寺

7月6日に突然西日本を襲った

豪雨に被災された全ての皆さまと  
そのご関係の皆さまに衷心よりお  
見舞い申し上げます。

眼下に広がる悲惨な風景ばかり  
でなく、皆さまの心も大きく傷つ  
けた現実が、一日も早く過去のこ  
とに感じられますよう、復旧が叶  
い、皆さまの心が穏やかになりま  
すように念じあげます。

合掌

### 杖のことば

人生の意味は  
あなたが  
自分自身に  
与えるものだ



平成30年7月豪雨災害・総頭川決壊風景 (8月初旬撮影)



### 聞思録(もんしりく)

甚大な被害をもたらした西日本豪雨から3カ月が経ちます。多くの皆さまの献身的なお力添えをいただきながら、先の見えない復旧の道程に呆然とする昨今です。西本願寺も災害ボランティアセンターを設置して(下記参照)、継続的な支援活動を行っております。そのボランティアの皆さまに土砂の除去の奉仕をいただきました。その最後にご門徒からお礼のお手紙をいただきました。その最後に「笑って話せる日の来ることを信じて歩んでいきます」と結んでいらつしやいました。

このお手紙を拝見した時、若輩で住職という重責に孤独感と焦燥感を憶えた時分に「生きる杖」となった『百人一首』の一首を思い出しました。被災された皆さまの苦難と非才なばかりに苦悩した私の経験を安易に重ね、軽はずみに口にすべきではないかもしれせん。また、万人に受け入れられる言葉でもありませんが、それでもお許しただいて申すならば、それは「長らへば またこのごろやしのばれむ 憂しと見し世ぞ今は恋しき(これから先、生き長らえていたら、この辛い今が懐かしくなるのだろうか。辛いと思っていた昔のあの頃が、今ではいとしく思われるのだから...)」です。

大きな苦難に遭遇すると「なぜ自分がこのような目に遭わなければならぬのか」という深い喪失感を抱き、「神や仏もあつたものじゃない」とか「先祖のたたり」という言葉を耳にします。それに対して、仏教は、思い通りにならないこの身の事実に向き合いながら生きるこの大切な意味と、仏や先祖とは苦悩の現実を変えてくれる存在ではなく、この苦しみに寄り添ってくれるはたらきであることに目覚めることを教えてくれます。

**人生の意味は**  
あなたが自身自身に与えるものだ  
この「杖のことば」は、ある心理学者の言葉です。私たちお念仏の先哲は

やり直しのきかぬ人生であるが、  
見直すことはできる

とご教示くださいました。これらの言葉を重ねて味わうとよくわかります。どれほど理不尽なことも、どれほど悔やまれても、その事実を変えることは叶いません。人生はやり直すことも、誰かに代わってもらうこともできません。私の身の事実は誰も引き受けてもらうことはできないのです。だからこそ、「困ったときはお互いさま」と支えてくれる皆さまや仏さまの大悲のはたらきに包まれて、ここに生きていることへの目覚めを通して「これから」が「これまで」を決めるという視点を大切に歩みをすすめてゆきたいものです。

### 安芸教区災害ボランティア

この度の「平成30年7月豪雨」における被災地への継続的支援に資するため、本願寺では7月16日に広島別院内に「安芸教区災害ボランティアセンター」を設置しました。これまで受け入れたボランティアは宗門内の僧侶、門徒をはじめ一般の参加者、併せて600人以上(8月末日現在)に及びます。

主な活動は寺院や被災地区の要請に応じた、民家や寺院の泥だしなど復旧作業で、坂町内では特に被害の大きかった小屋浦地区の西昭寺様には連日、また中村地区・西側地区・森浜地区にも、数日献身的な復旧作業をしていただきました。



災害時にはボランティアの活動が大きな役割を果たしています。そして被災地が一番恐れていることは関心が薄れることです。これからも末永いご支援をよろしくお願いいたします。

### 仏教婦人会 あれこれ

#### 一日研修旅行

6月18日(月)四国の今治方面への一泊二日研修旅行が行われました。曇り空でも瀬戸内の島々が遠くまで見渡せるしなみな海道を走り、大三島の万福寺に参拝しました。この地は、古くからお念仏のみ教えをよるこばれる方が多くおられる「ご法義地」で、明治になって宇和島市吉田町から現在の地に移転されました。以来、万福寺は、御法座ごとに多くの門信徒がご参りされています。平成19年に本堂の改築が完成し、美しい御堂にお参りさせていただきます。

ご住職の法話を聞き、続いて副住職の案内で、とても珍しいという階段の付いた須弥壇や、現在の日本画壇で五指に入ると言われる中島千波画伯の「しだれ桜」の襖絵を見学させていただきます。



階段付き須弥壇

手厚いおもてなしに感謝しながら万福寺をあとにしました。昼食は、今治国際ホテルの23階ラウンジからの景色を眺めながら美味しいランチをいただいた後、タオル美術

館に行きました。ちようど片岡鶴太郎の企画展やキャシー中島のキルト展示も開催されていて、ゆつくり楽しむことができました。

#### 梅雨時

はありましたが、雨も降らず、参加者44名は楽しい時間を過ごし、みんな無事に研修を終えることができ、仏さまのご縁に感謝する一日でした。



万福寺

#### おみがぎ・草刈り

8月11日(土)お朝事後、仏社会の皆さまといっしょに、境内の草取りと、法務員のご指導の許で本堂の仏具をお磨きしました。

### 仏教壮年会 あれこれ

#### 安芸北組一日研修旅行

7月5日(木)法然聖人ご旧跡を訪ねて、丸亀の正宗寺と、善通寺にお参りしました。

大雨予報(四国の一部では大雨警報が出ていた)の日で、決行が危ぶまれましたが、西林寺からは7名参加しました。正宗寺のご住職の説明を聞き、法然聖人が流罪で四国に上陸した際、浜辺を掘り出したところ水が湧き出た井戸「權掘りの井戸」が現存しています。次に弘法大師空海生誕の地に、自ら建てた真言宗総本山善通寺にお参りしました。このお寺には法然聖人が生前ご自身で造られたというお墓「逆修の塔」と、法然聖人との再会を果たせなかった親鸞聖人が、その思いを込めて刻まれたという木像が安置されている親鸞聖人堂があります。



權掘りの井戸



正宗寺